

令和2年3月26日

建築構造計算で使用する評価式の検証結果の更新

～実験データベースを用いたRC造部材の構造特性評価式の精度検証結果の公表～

国立研究開発法人建築研究所では、建築研究資料No.197「実験データベースを用いた鉄筋コンクリート造部材の構造特性評価式の検証（2020年版）」をとりまとめ、このたびウェブサイトに掲載しました。

鉄筋コンクリート造（以下、RC造）部材の強度、剛性及び変形能は、RC造建築物の構造計算において重要な評価項目であり、それらの評価に用いる構造特性評価式の特徴を理解することは構造計算を適切に行う上で重要です。国立研究開発法人建築研究所では、RC造部材を対象として、1975年～2013年に発行された構造実験に関する国内論文から、適切なデータを選定・収集し実験データベースを構築しています。この実験データベースを用いて、建築基準法などで用いられている構造特性評価式の精度についての検証を行い、その結果を建築研究資料No.175「実験データベースを用いた鉄筋コンクリート造部材の構造特性評価式の検証」として2016年3月に発刊いたしました。

本資料では、既存の実験データベースにさらに最新4年分（2014年～2017年）のデータを追加し、構造特性評価式の評価精度の検証結果を更新しました。構造計算におけるRC造部材の適切なモデル化やRC造部材の構造特性を理解するために、本資料が一助となれば幸いです。

ダウンロードURL

<http://www.kenken.go.jp/japanese/contents/publications/data/197/index.html>

（内容の問合せ先）

国立研究開発法人 建築研究所
所属 構造研究グループ
氏名 渡邊 秀和（わたなべ ひでかず）
電話 029-864-6639（直通）
E-mail wata_h@kenken.go.jp

実験データベースを用いた鉄筋コンクリート造部材の構造特性評価式の検証 (2020 年版)

目次

- 第1章 はじめに
- 第2章 収集データの概要
- 第3章 梁部材
- 第4章 柱部材
- 第5章 腰壁・垂れ壁付き梁部材
- 第6章 袖壁付き柱部材
- 第7章 耐力壁部材
- 第8章 柱梁接合部
- 第9章 架構

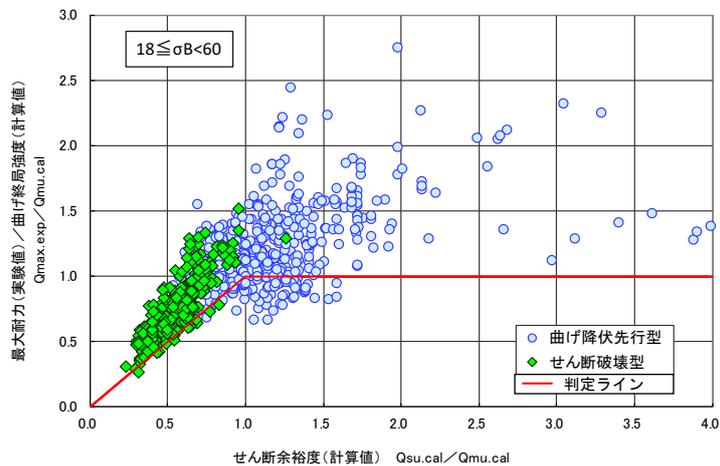


図1 検討結果の例1：柱部材の終局強度評価式と実験値の比較

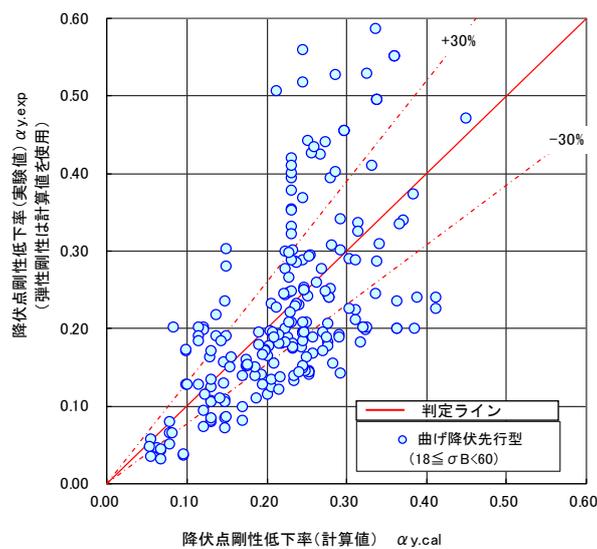


図2 検討結果の例2：柱部材の降伏点剛性低下率評価式と実験値の比較